

# 被災した大川小学校の校歌額が復活

03月28日 19時07分



東日本大震災で多くの児童らが犠牲になった石巻市の大川小学校の遺族と交流してきた名古屋市の団体が、被災した校歌の額を復活させ、メンバーが校舎を訪れて遺族に引き渡しました。

石巻市の大川小学校は10年前の津波で児童と教職員あわせて84人が犠牲となり、校舎も被災しました。

校歌の額は遺族と交流を続けている名

古屋市の一般社団法人「aichikara」が復活を申し出て作成し、28日はメンバー3人が校舎を訪れて遺族に引き渡しました。

かつらの木でできた額は横2メートル40センチ、縦1メートル70センチで、法人の呼びかけに応じた愛知、岐阜、茨城、愛媛、神奈川の小中学校と高校あわせて8校の子どもたちなどが2か月余りをかけて完成させました。

法人の石原杏莉代表理事は「作成に携わった子どもたちにもいつか校舎を訪れてほしいし、校歌を通じてこの場所で起きたことを広く知ってもらいたい」と話していました。

大川小学校の校舎は、震災遺構として当初、4月に公開予定でしたが、整備が遅れ、完成が5月にずれ込むということで、校歌の額の設置場所も今後、検討されるということです。

6年生だった次女を亡くした鈴木典行さんは「校歌には“未来をひらく”ということばがあります。未来の命を守れるよう、復活した額を伝承活動に活用していきたい」と話していました。